

家庭教育学級新聞



NO.45

令和4年度第3号
2022.11.29発行
教育委員会子ども教育課

2学期も残り少なくなりました。子どもたちは運動に勉強に全力で取り組み大きく成長したことでしょう。

今学期は、家庭教育学級として親業講座が市内2カ所で開催されました。

令和4年度親業講座



講師は、親業シニアインストラクターの内田智代先生

第1回講座：日向小 10/11（火）

第2回講座：まつおこども園 11/4（金）

親業とは、親の愛情をしっかり伝え、温かい親子関係を築くことを目的としています。またここで教えていただく内容は、すべての人間関係にも有効なコミュニケーションの方法です。

子どもとのいい関係をどうしたら作れるでしょうか。一番重要なのは……

話の腰を折らないで……

ふーん、そうなんだ

子どもの話をじっくりと聞くこと



<日向小にて>



<豊岡体育館にて>

話の腰を折らず、また、自分の意見を言わずに、相手の話を聞くのは難しいですね。演習では、話の聞き方を実際に行い、話をじっくりと聞く方法を教えていただきました。

12月8日（木）は今年度最後の講座になります。どうぞ南郷小までおいでください。講座の内容は第1回・第2回と同じ内容です。（申し込み・問い合わせ：子ども教育課 0475-80-1456）

なるとうこども園9月9日（金）「親子で遊ぼう～気軽にできる遊びの紹介～」
講師 基本塾 理事長 高橋美恵子 先生



身近にある物を使って親子で遊べる方法を教えていただきました。新聞紙を使ったり、手遊びだったり、ただ面白いだけではなく、遊びによって、「理解力・人との関り方・自分のもつ運動能力」を引き出す遊びでした。

また、どのくらいの力で相手とかかわったらいいか、遊びの中で身に付ける方法も教えていただきました。





我が家の子育て

成東東中学校

教頭 根本晃一

我が家は、私、妻、長女（大学4年）、長男（高校3年）の4人家族です。

今回、我が家の子育てという題目で、お話をいただきましたが、子育てというよりは、子育てしている中でちょっとしたエピソードと、そこで親として学んだこと失敗したことについて紹介させていただきます。

外出先でのこと

長男が4～5歳のころ、とにかく走る事が好きで、ショッピングモール、お店の中、道路など、周りを気にせず走り回ってしまうので、困ってしまうことが多々ありました。とにかく目を離すと遠くの方まで走ってしまうので、追いかける私たちは、出かけるたびに大汗をかいていました。

ある日、このままではいけないと思い、ちょっと懲らしめることにしました。人通りの多い歩道で、いつものように走り出す長男。その日は、そのまま走らせ、私たちは隠れました。いつものように私たちのことは関係なく走っている長男も、いつもと違うことに気がつき、周りを見て私たちを探し始めました。探しても私たちを見つめることができず、とうとう泣いてしまいました。そこへ私たちの登場。「危ないから一人で走らないで。」と一喝。さすがに堪えたらしく反省していました。でも、2～3日したら、いつもの走る姿が…。本当に子どもとは、何度言っても言うことを聞かないんだ。繰り返し、繰り返し伝える必要があるんだとつくづく思いました。

エピソード

長男が走った時の懲らしめを何度かやりました。そのうち慣れてきてしまい、泣くことがなくなりました。

ある日のこと、長男の走る姿を見て、私たちは隠れました。私たちを探す長男。なんと、近くにいた警察官に助けを求めてしまいました。私たちは急いで長男のもとへ駆けつけました。警察官からは、「目を離したら危ないので、しっかり見ていてください。」と、長男を懲らしめるつもりが、逆に私たちが、懲らしめられてしまいました。

かめはめ波

長男が、ウルトラマンやドラゴンボールなどの戦いものに興味を持ち始めました。家でスペシウム光線やかめはめ波を連日放ち、親としてはやられ役で付き合い、疲れる毎日でした。その戦いが幼稚園に波及してしまい、家と幼稚園で毎日戦うことが、長

男の生活となっていました。親としては、楽しくやっているのですが、特に気にしていませんでした。

しかし、それから数週間後、幼稚園から戦いごっこ禁止のお知らせがきました。叩いたり、蹴ったりする行為が良くないとのこと。確かに、戦いごっこからの悪ふざけから、いじめ等に発展することも考えられるので、良くないことだと猛反省しました。

エピソード

家では、長男がヒーローで私が悪役でした。つまり、最後はいつも私が必殺技でやられるというシナリオとなっていました。

ある日、幼稚園から帰ってきた息子が、「俺のかめはめ波、幼稚園じゃ効かないんだよな。」とひと言。私はとっさに、「修業が足りないんだよ。」と返しました。そのため、しばらくの間ずっと修行に付き合わされました。

日々成長

正直なところ、生活能力のない私は、子どもと一緒に成長してきました。お恥ずかしながら、脱げば脱ぎっぱなし、食べても食器をそのままにして席を離れるという状態でした。

子どもが成長するにあたって、妻が子どもたちに、「脱いだものは洗濯機に入れなさい。食べ終わったら食器を流しに持っていきなさい。」と言うたびに、自分が言われているように感じました。子どもたちに合わせて、私もやるようになり、今では、習慣となり私もできるようになりました。現在も子どもたちとともに日々成長しています。

エピソード

ある朝、給料明細を妻に渡したところ、「学校からのプリントは、持ってきたその日に見せないといけないんだよ。」と子どもに注意されました。この時、ちょっとカチンとききましたが、子どもの方が（家庭内のルールとして）正解なので我慢しました。子どもはよく見ているものだと思います。

以上3つの出来事について書かせていただきました。今回このような執筆のお話をいただいて改めて思ったことは、子どもたちも成長しているが、我々親も一緒に成長しているのだと思いました。そして、親の考えを押し付けるのではなく、ゼロから一緒に考え、一緒に成長していこうと考えていけば、もっと楽に子育てができたのかなとも思いました。我が家は、下の子が高校3年生なので、子育ても終わりに近づいています。残り僅かな子育て時間、ゼロからスタートしてみたいと思います。

